



言葉や文化が違って、 共に幸せに暮らせるまちに

みなさんの中には、外国人の知り合いがいる人も多いのではないのでしょうか。また、外国人とあまり接する機会がない人でも、道ですれ違うことは、日頃よくあるのではないのでしょうか。

平成20年末現在、日本における外国人登録者は約220万人で、日本の総人口の1・74%を占め、いずれも過去最高となっています。また、広島県においても、外国人登録者は10年前に比べて1・5倍に増え、現在、約4万2千人の外



勤労青少年ホームでの英会話講座の様子

国人が住んでいます。

竹原市にも、現在、約2000人の外国人が住み、主な国籍は中国、韓国、朝鮮、フィリピン、ブラジルなど様々です。定住している人もいれば、勉強や仕事のために一時的に日本に来ている人など、目的も異なっています。

このように、国際化時代を反映して、日本に住む外国人は、年々増加の傾向にあります。

国際化の進展によって、外国人に対する理解は進んでいます。一方、未だに偏見や差別意識が残っているのも事実です。例えば、就労における差別や入居・入店拒否、在日韓国・朝鮮人への暴力や嫌がらせ等の問題があります。また、地域でのコミュニケーション不足が原因で、生活習慣の違いに

よるトラブルも発生しています。

外国人は、それぞれ異なった国の言葉、宗教、文化、習慣などをもっているため、日本での生活ルールを理解して暮らすことが難しい場合があります。

そこで、一方的にルールを押し付けるのではなく、外国人の努力だけでは難しいことを、受け入れる側が理解し、サポートする必要があります。そして、お互いの文化の違いを認め合い、対等な関係を築くことが、安心で住みよい地域づくりにつながります。

対等な関係を築くために、少し不安はあるでしょうが、まずはコミュニケーションをとることから始めてみてはどうでしょうか。「外国語はわからないから、話せない：」ではなく「簡単な日本語とジェスチャーで話してみよう」に、また「良いイメージがないから関りたくない」ではなく「この人はどんな個性を持っている人だろう」に発想を変えて、お互いを知る努力をすることが必要です。

また、「外国から学ぶ」という視点をもつことも大切です。外国には、日本にはない技能や考え方があります。外国人と情報を交換することが、自分自身の視野を広げるきっかけになることもあるでしょう。

外国人も、地域住民の一人です。そのことを理解して、認め合い、

人権啓発忠海町ブロック研修会

「松本サリン事件」の容疑者扱いをされた自身の体験から、犯罪被害者の支援や人権などについて講演していただきます。

日時 1月25日(月) 19時～

場所 忠海公民館

問い合わせ 人権センター

☎22-3726



講師 河野義行さん

市では、ゴミの分別の仕方について、英語とポルトガル語で説明したものを用意しています。



必要な場合は、お問い合わせください。

問い合わせ 市民生活課生活環境係

☎22-7734

学び合いながら、より暮らしやすい地域をつくっていきましょう。